



# 卓 話



## クラブ協議会

### ★小林久次年度会長

4月13日椿山荘にて行われた地区協議会の報告をいたします。まず全体会議の報告からです。



次年度RI会長は米国ミズーリ州、カークスビル・ロータリークラブのレイ・クリンギンスミス氏です。次年度のテーマは「地区を育み、大陸をつなぐ」ということで、このテーマを選んだ経緯はテーブルにRI会長のコメントをお配りしておきました。次年度第2580地区ガバナーは東京江戸川ロータリークラブの上野操氏です。次年度ガバナーの方針は、各クラブが自主性を持ってクラブの足下からロータリークラブの本質である職業奉仕―SERVEの実践を基本として、地域社会を育み、それが力となり、おのずと大陸への架け橋になる。また、ロータリークラブとは何か？決して宗教ではなく、古くからの道徳感である職業奉仕、つまり職業に徹する事であるという話でした。ここまでは全体会議の話です。

引き続き会長・幹事部門別会議の内容をご報告致します。全体会議の内容をふまえ、次年度ガバナーから詳細な話がなされました。

#### 1. 職業分類を見直す

職業分類が会員増強に伴いおろそかになっている。ロータリークラブは異業種の場であるべきだということできっかりやって欲しいとのことでした。

#### 2. 例会を大切に

メンバーを中心にした卓話をして欲しい。各クラブ内だけでなく、全ロータリークラブにはすばらしい会員が多くいるので、その方々に頼み、充実した卓話をお願いしたいということでした。

#### 3. 社会奉仕、国際奉仕を活発にする

ロータリーに寄付しているお金の半分は地区で使えるようになったので、社会奉仕に役立てて欲しいとの事でした。（新地区補助金）また、グローバル補助金などもありますので申請して活用して欲しいとのことでした。

#### 4. クラブの活性化

クラブは個人の集合です。クラブの活性化は個々が活発しないと行えません。ロータリークラブを自ら知り、自

ら行動して欲しい、なぜ自分がロータリークラブの会員であるのか見直すのが必要であるとのことでした。

### ★小林俊次年度クラブ奉仕委員長

部門別協議会は7つのパートに別れ、それぞれ約2時間の討論が行なわれました。本会議第一部で報告されたスピーチをもとに、討論が行われました。第2580地区は5年前3580名いましたが、現在は3200名ほどになっており、クラブ会員が減少傾向にあります。そして会員の減少による予算減が問題になっています。さらにロータリーの活動そのものが低下しており、これの挽回法を考えなければならないということでした。

ロータリーの基盤は各ロータリーにあるということで、クラブ奉仕委員長の役割は、クラブの運営すべてについて采配することであり、会員の資質の向上に努めることが確認されました。

また同じことの繰り返しでクラブをつまらなくするといった意見もありました。

具体的な討論としては、各クラブの職業分類を見直して欲しいということ、更に細分化して分類表を整理すると、新しい分野が見つかるかもしれない。その代表をクラブに勧誘すれば会員増強が出来るという意見がありました。具体的にはタウンページの利用も考えて地域の分類表を作成する案も出されました。これに対して定年退職して現在無職の方は、どの分類にも入らないがどうするかという質問がありましたが、現在はまだ考慮中とのことでした。また職業分類は1度も直したことがないから直せと云われても困るという意見もありました。

委員会の開催回数に関しては、上野ガバナーエレクトは年に何回か開催したいとのことでした。その他、海外からのビジターの会費の金額の情報交換（東京RC 3,000円、東京紀尾井町RCクラブ2,500円）もされました。

また財政面から、会員卓話の活用についても発表がありました。登録を受け付けたところ、多数の登録があったので是非行って欲しいとのことでした。この件に関して、家族も登録出来ないか、各クラブの卓話者の予告をウェブで発表出来ないか、米山学友会から卓話を頼めば良いのではないかな等の意見が出されました。

地区協議会は従来上意下達的なところがありましたが、今後は各地区のロータリークラブの意見を拝聴し、協議して行きたいということでした。

## ★大塚次年度職業奉仕委員長

職業奉仕委員として自分の委員会に参加してきました。全体については次年度小林久会長が話したので、分科会のご報告を致します。来年度の地区の職業奉仕委員会は委員長が渡辺氏という方で大変気合いの入った人です。「職業奉仕をクラブの活動の座標軸においていこう」ということで、力が入った分科会でした。渡辺氏から事前に私の手元へ「幾百年も永続し、反映している京都の老舗17店舗に学ぶ」という資料が送られてきました。要するに、売り手よし、買い手よし、そして世間よしという精神を持って職業奉仕を先人に学ぼうというのが委員長の方針であるようでした。当会の職業奉仕については後ほど触れますが、まず会員が、先人はどのような職業をして、それを通してどのように世界に、世間に、還元しているのかを考えることがポイントであると思いました。

2番目は職業奉仕の中の環境保全委員会という、小委員会についてですが、職業奉仕を通して環境保全にどう貢献できるのか考えてみて欲しいというのが、この小委員会の目的であるようです。言い換えれば我々仕事マンとして、環境問題を通し、いかに社会に貢献できるかを考えてみる事が職業奉仕の理念であると読み取れました。

## ★秋葉賢次年度ロータリー財団委員長

地区ロータリー財団委員長の古宮誠一委員長の挨拶にはじまり2010年—2011年度のロータリー財団部門の活動内容につき報告がありました。本部門の特徴は「未来の夢計画」に沿った新補助金制度の改定です。

新補助金制度は地区財団活動資金(DDF)をグローバル補助金と新地区補助金の二つに分け、グローバル補助金は地区の管理委員会が管理して、国際プロジェクト等に活用します。次年度の当地区の利用可能資金は67,000ドルです。また新地区補助金は地区が管理して地域が求める単年度プロジェクト等に利用することが出来る。次年度の当地区の利用可能資金は66,000ドルとなります。

いずれも国際ロータリー財団の管理・運用から地区のロータリー財団管理へ移管され、運用の自由度が増すことが特徴です。

またロータリー財団への寄付は従来と変わらず年次寄付は毎年100ドル/人です。使途指定寄付(ポリオ撲滅募金)は当地区では3000円/人×3年間で次年度は3年目にあたります。その他ロータリー平和フェローシップの紹介やポリオ・プラスの現状と当地区の寄付状況の資料が配布されました。

Q&Aでは各プロジェクトへの申請時期がクラブの活動時期(次年度への引継ぎ等)との整合性がなく、各クラブからの不満が多く表明されました。また東京RCが取り仕切ったカンボジア地雷除去プロジェクトのような地区を上げた複数年度に跨る取り組みを考えて欲しいとの要望もありました。

## ★酒井次年度国際奉仕委員長

代理出席頂いた向山会員の報告をお話しします。

部門別では国際奉仕部門の小委員会である青少年交換、世界社会奉仕、オンツーニューオリンズ、およびプロジェクト検討委員会の各委員長からの発表がありました。

青少年交換委員会のプログラムの概要としては、青少年交換の目的であるとか、他の留学制度の違い、ロータリーの交換留学のルールについて話された他、年間スケジュールの発表、意見交換と質疑応答がありました。

世界社会奉仕委員会の委員長からは、先ほどロータリー財団部門で話がありましたグローバル補助金について話があり、来年度から地区の補助金の制度が変わるので積極的に活用するようという事でした。活用する上で次の6つの重点分野があります。①平和と紛争防止・解決②基本的教育と識字率向上③経済と地域社会の発展④疾病予防と治療⑤水と衛生設備⑥母子の健康。これらに焦点を合わせ、海外のクラブと共同作業としてグローバル補助金の申請を計り、積極的に行うようにしたいとの事でした。

オンツーニューオリンズ委員会委員長からは、次年度世界大会がニューオリンズで開かれますので積極的に参加するようとの事でした。

プロジェクト検討委員会はこの3つの委員会との連携を取りまとめて支援をしていくということが発表されました。

最後に地区の次年度国際奉仕委員長から3つほど話がありました。

1. 自クラブに情報をうまく伝えることを工夫し、検討して欲しい。
2. 7月中の週末に地区セミナーを予定しているので、各クラブの方針や相互理解の場としたいので準備をして頂く。
3. 他のNPO, NGOとどこが違うのか各クラブで話し合ってもらいたい。

以上のような宿題を与えられていますので、今後次年度の委員会を開きながら検討して欲しいと思っています。

## ★関根次年度社会奉仕委員長

中村カウンセラーのご指導のもとに話がありました。まず社会奉仕委員会は基本に戻るということを念頭に置き、地域のニーズにあった奉仕活動をして欲しいということでした。2番目としては寄付等お金ですませるのではなく、心のこもった全員参加の企画を考えて欲しいとの指導がありました。その後青少年育成委員会、環境保全委員会2つの部門に分かれました。まず環境保全委員会ではエコでも電気を節約するなど、身近なエコを考えて欲しいという意見がありました。

青少年育成委員会及び環境保全委員会については各委員長と相談し次年度の企画をしたいと思っています。

## ★曾我次年度米山奨学委員長

委員長が米山の奨学金が少なくなっていることで、基金を各クラブから集めて頂きたいという事と、大口の寄付に關しては節税の効果があるのでその辺は終始考慮して行って欲しいとの事でした。

米山奨学委員会関係でDVDがこれまでに3巻出ています。

去年の7月に奨学生が国に戻りどのような活躍をしているのかというDVDを作ったので、例会等で放映をしてご理解頂き、奨学金の寄付を集めていきたいという事でした。四谷ロータリークラブでは毎年8000円ということで48〜50万ぐらいの寄付が集まっています。第2580地区の71クラブで中

間位の寄付金の額ですので、金額を増やす等のプレッシャーはないと思っています。次年度、奨学生は来ないという事ですが、他のクラブの活動についてご報告したいと思います。